

成果の説明書

(氏名) 溝口哲郎	(学部) 経済学部
1 重要事項	
【研究活動】 (学術論文)	
・ アジア開発銀行研究所所長吉野直行氏、慶應義塾大学経済学部助教のFarhad Taghizadeh-Hesary氏との共同論文 “Optimal Fiscal Policy Rule for Achieving Fiscal Sustainability: A Japanese Case Study.” がNaoyuki Yoshino and Farhad Taghizadeh-Hesary eds (2017) Japan’s Lost Decade (Springer)のChapter 3に掲載された。本論文は、これまで財政の持続可能性を測る指標が国債の供給サイド（政府予算制約式）のみから導出されており、国債の需要サイドの議論が無視されてきた。そこで上記の論文では国債の需要サイドを考慮に入れた経済モデルを導出し、新たな財政ルールを提案した論文である。	
・ 腐敗の実証研究の最近の動向について取りまとめた溝口哲郎「腐敗の実証研究の最近の動向について」が高崎経済大学論集、第60巻、第2～3合併号に研究ノートとして掲載された。論文では最近の腐敗・汚職の実証研究について、どのような要因が腐敗・汚職に影響しているのか、また腐敗・汚職がどのような形で経済に影響を及ぼしているのか分類した上で、サーベイしたものである（学内の競争研究資金のサポートもあり、完成することができた。競争研究資金のサポートに感謝したい）。	
【研究報告・学会&各種セミナー参加】	
・ 2017年7月8日に開催された「国際ビジネスファイナンス研究会」にて、「腐敗の経済分析について」研究報告を行った。研究報告は東京経済大学の齋藤雅元准教授との共同研究である「腐敗・汚職の経済分析のサーベイ」（麗澤大学紀要）をもとに行った。	
・ 2017年11月29日に関東学院大学の経済経営研究所のプロジェクト講演会にて「腐敗の経済分析」に関する研究報告を行った。	
・ 2017年6月24日・25日に開催された日本経済学会2017年度春季大会（立命館大学）に参加。自分の研究に関連する研究報告をいくつか聴講し、情報交換をほかの研究者と行った。	
・ 2017年11月8・9日に行われたIMF OAP 20th Anniversary: IMF-Japan Collaboration for the Asia-Pacific Regionの会議に出席し、アジア太平洋地域のマクロ経済状況に関するセミナー講演を聴講した。	
・ 2017年11月30日に開催された財務総合政策研究所および中国財政部財政科学研究院との共同セミナー（日中財政シンクタンクフォーラム）に参加し、日本と中国の財政に関する発表を聴講した。	
・ 2018年1月12日に開催されたIMF/財務省財務総合政策研究所 共催セミナー「中国金融システムの展望・課題：FSAPレポートからの示唆」に参加し、中国金融システムに関する発表を聴講した。	
【論文査読】	
Journal of Public Economic Theory より査読依頼があり、匿名による論文査読を行った。	

【教育活動】

- ・2018年度前期開講予定の **Introductory Economics** の授業でアクティブラーニングを行うため、センゲージラーニングと交渉をし、学生の授業理解のための **e-learning** システムの導入を行った。また市場と経済についても、**e-learning** のプラットフォームの導入について、東洋経済新報社と交渉のサポートを行った。
- ・2017年10月13日に京都大学教授の矢野誠先生をお招きして「市場の質と法と経済学」という論題で学術講演会を行うため、推薦を行った。
- ・フィリピンの **University of Perpetual Help** と短期留学および交換留学の方向性で、目下交渉を行っている。
- ・学内の学生懸賞論文の査読を行った。
- ・今後の教育の方向性のあり方について、2017年6月3日に大学イノベーション研究所が主催したセミナー、2017年11月5・6日開催された国際教育カンファレンス (**Edovation×Summit**) に自主的に参加し、国内外の教育の現在について情報交換、外部有識者との人的交流などを行った。
- ・2017年10月14日、岩手県立盛岡北高校、2017年11月16日に私立前橋育英高校に「**MMORPG** と経済学」についての出前講義を行った。

【地域貢献活動】

- ・国際学科のプロモーション活動の一環として、ラジオ高崎のラジオゼミナール(2017年9月8日、9月15日放送分)を行った。

2 その他の事項

国際学科が初年度のため、ほかの教員とともに国際学科の認知度を高めるためのプロモーション活動を行った。学内教務としては、入試運営委員会の委員として入試判定などの業務に従事した。

3 次年度以降の計画・抱負

腐敗・汚職は、市場メカニズムとは異なる賄賂などの金銭的インセンティブによって、資源配分の歪みを通じて一国の経済厚生に悪影響を及ぼす。そこで今年度も継続して、過去の研究蓄積をベースに腐敗・汚職がどのような形で国家統治や制度、市場の質に影響を与えるのかを経済厚生の評価から明らかにし、腐敗・汚職防止策がどの程度経済厚生を高めるのかを分析する。腐敗の経済分析については、目下東洋経済大学の齋藤雅元准教授との共同研究を継続しており、今後上記の分析を深化させる予定である。腐敗の経済分析と関連する形で、天下りに関する厚生評価を今年度過去の研究を発展させ、行う予定である。また財政の持続可能性に関する議論についても、引き続き国債の需要サイドを導入した動学モデル等を構築して分析を行う計画である。

教育面では、国際学科の留学のサポート、秋学期より始まる基礎演習の学生指導が始まるため、これらをしっかり行っていきたい。また2年目となる国際学科の認知度を上げるためのプロモーション活動も継続して行っていきたい。基礎演習では、学内・藤井ゼミ、法政大学、横浜市立大学、東洋大学とのインターゼミナールを予定している。